

8年生

土佐山に貢献する

土佐山活性化プロジェクト～自分たちのふるさとをPRしよう（70時間）

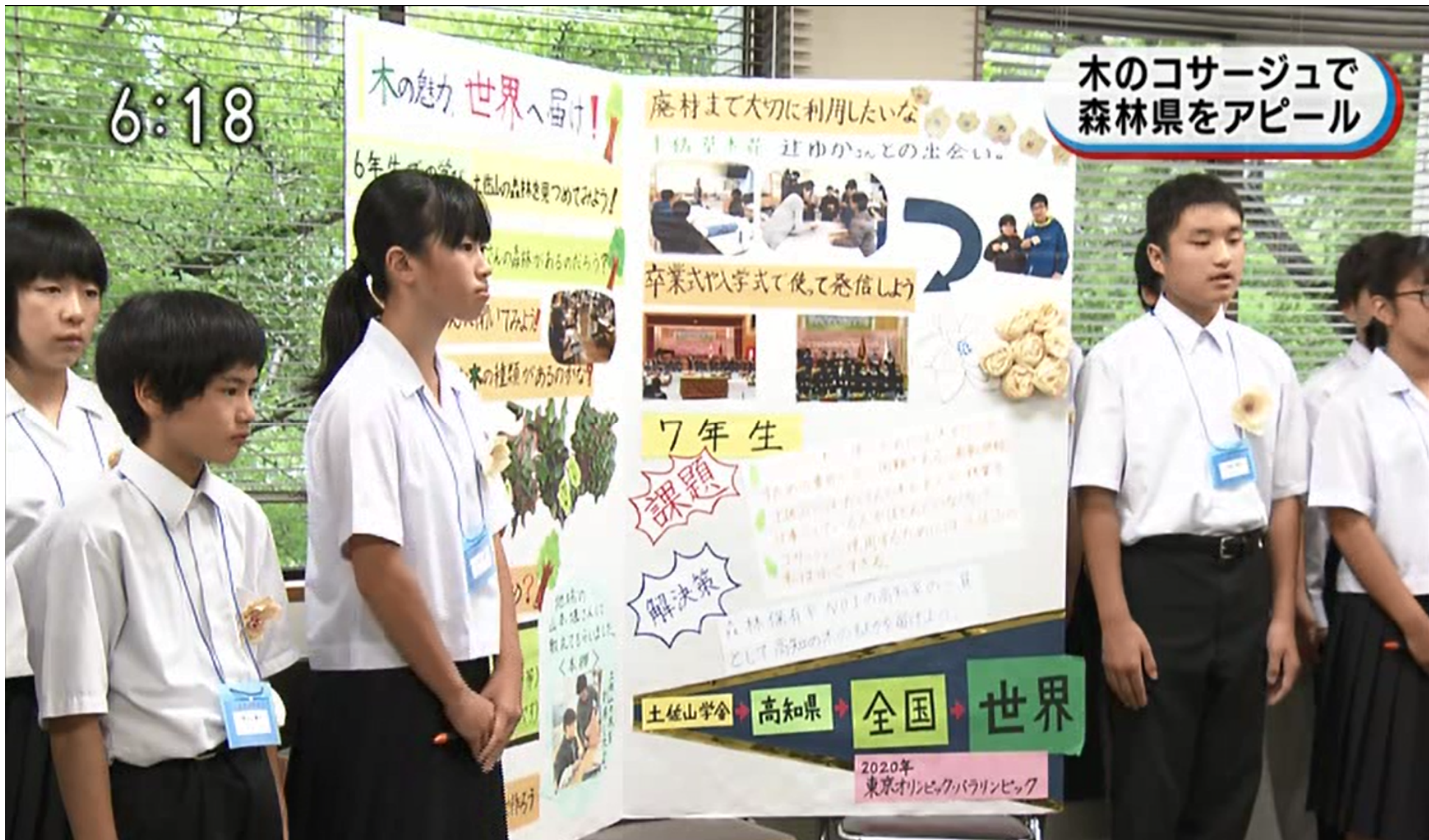
9年生

土佐山貢献プロジェクト～地域の一員として土佐山に貢献しよう～（70時間）

地域の方々に対して自分たちの構想や考えを提案

土佐山特産のゆずを活用して、ふるさとをPRする





森林県をアピール・テレビにも取り上げられる



3階建ての土佐山学舎の玄関ホール・天井は高く光が差し込む

9年生が考えた「土佐山観光アー」の展示

自分たちが考えた土佐山観光ツアー

ローマンあひね
秋遊土佐山次

ツアー名 ローマンあひね 秋遊土佐山次

日時
平日 令和元年 11月1日(金) @ 11月10日(月)
(理由) 紅葉、冬の季節の中で一番土佐山は紅葉が綺麗なので、11月頃にしたいから、時に秋の土佐山が楽しみたい

対象者
平日 (大人特にシニアを対象)
理由 お金と時間がある人が多くてからと考えたから
休日 (家族連れ子ども連れの対象)
理由 家族連れで子ども連れの来客が多いから

乗り物 中型バス
マイクロバスだとお客を乗せられないのだから、中型バスを借りる必要がある

ツアー内容 (コース別)

平日	休日
大人シニア向け BAL (地域のもの) どんどん (お水の食べ物) オベルジュ (お水の食べ物)	家族連れ BAL (地域のもの) どんどん (お水の食べ物) オベルジュ (お水の食べ物)
山蔵社 (土佐山の歴史)	普賢洞 (橋渡り) オベルジュ (お水の食べ物)

ガイド 自分たちの力でやる!
理由: これまでの知識を生かし、土佐山の魅力を伝えたいから、直接お客さんの顔を見て自分たちの思いを伝えたいから

中学生らしさ
各名所を教員が特別してカメラで撮る。1.2人がバスに乗る。それ以外の場所ではガイドと本会える!

金額

平成27年開校

特認校制度による募集状況・児童生徒数

全校児童生徒数

学年	27年度		28年度		29年度			30年度			令和元年度		
	募集人数	申請数	募集人数	申請数	在籍数	募集人数	申請数	在籍数	募集人数	申請数	在籍数	募集人数	申請数
1	10	16	15	13	8	9	17	15	5→0	7	7	8→2	9
2	15	1	-	-	14	3	2	16	-	-	18	-	-
3	10	0	10	6	20	-	-	17	-	-	18	-	-
4	10	3	7	3	11	6	1	18	-	-	17	-	-
5	15	0	4	5	12	5	1	14	-	-	18	-	-
6	10	5	10	4	16	-	-	12	-	-	14	-	-
7	10	11	8	16	6	11	7	16	-	-	12	-	-
8	10	4	-	-	18	-	-	12	-	-	15	-	-
9	10	2	5	2	19	-	-	18	-	-	12	-	-

26年度 57名

27年度 98名

28年度 129名

29年度 141名

30年度 142名

31年度 141名

県内外からの移住があり校区外からの受け入れは不可能となった

まるごと有機プロジェクトの取り組み

1. 「夢産地とさやま開発公社」

- ・有機農業など環境に配慮した農産物の生産振興

2. 付加価値向上への取り組み

- ・有機ショウガを原料としたジンジャーエールの製造
- ・土佐山スイーツの製造・販売

まるごと有機プロジェクトの成果

1. 「農家所得の安定化」

- ・地域の農産物の生産安定・販路拡大

2. 「担い手の確保」

- ・有機農業研修生11名受け入れ⇒6名が地域内で就農

3. 「雇用の創出」

- ・平成23年度14人⇒平成29年度67人

4. 「地域の魅力向上に貢献」

- ・加工品認知度アップによる農産物全体へ波及効果、「土佐山」のブランド化

交流・定住人口拡大プロジェクト・効果

○「地域住民・NPO法人土佐山アカデミー」

- ・新たな出会いやアイデアを生み出す学びの場を創造
- ・土佐山地域の自然と調和したライフスタイルの提案

○土佐山をステージとした人材育成

- ・中山間地ツアー・移住者交流事業・援農プログラム

○土佐山学舎へ徒歩15分圏内に住宅建設10戸予定



○交流人口 約15,500人（7年間延べ人数）

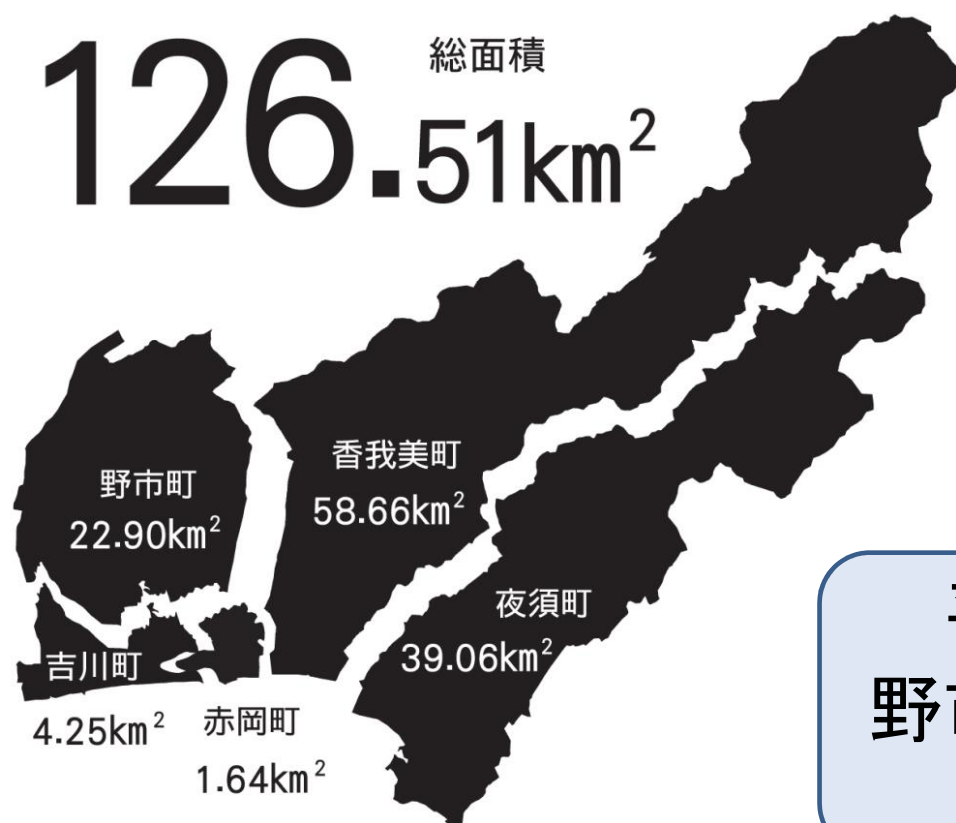
○移住者数 50人（7年間延べ人数）

○定住者数 29人

考察・感想

1. 「社会学一体の精神」と伝統的な「学び」の風土を残している土佐山の姿は、公民館を基軸とする飯田市と似通ったところがあると感じた。
2. 中山間地域としての姿や悩みは、飯田市の上村、南信濃と似通っていた。住民自らが「自分たちの地域を自分たちで何とかしよう」と、学びの場を中核に、行動を始めたことが児童数の増加、人口増につながった。ぜひ参考にしたい。
3. 小中一貫の義務教育学校とし、「4・3・2」の学年区分の9年間の学習カリキュラムがしっかり組まれていた。また、英語教育に力を入れた取り組みも、子どもたちが自信を持つことにつながるに違いない。
4. 大人たちの取り組みが、子どもたちにも波及し、ふるさと愛し、誇りに思う子供が育っている点は注目に値する。
5. 「中山間地域」・「限界集落」・「耕地が狭い」・「小規模校」などというマイナスの要素を魅力に変え、『社会学一体・小中一貫教育プロジェクト』・『まるごと有機プロジェクト』・『交流・定住人口拡大プロジェクト』という、系統だった取り組みにした点は参考になる。

報告2. 保幼小中・家庭・地域連携(一貫)教育について



視察先：
高知県 香南市

平成18年、赤岡町・香我美町・野市町・夜須町・吉川村の5町村が合併して「**香南市**」が誕生

香南市の概要と教育について

園児数：1064人

児童数：1720人

生徒数：720人

【令和元年6月1日現在】

「野市中学校区」

野市保育所・佐古保育所
野市東保育所・野市幼稚園
野市東幼稚園・野市小学校
佐古小学校・野市東小学校
野市中学校

「香我美中学校区」

香我美おれんじ保育所
香我美幼稚園
香我美小学校
(岸本小学校)
香我美中学校

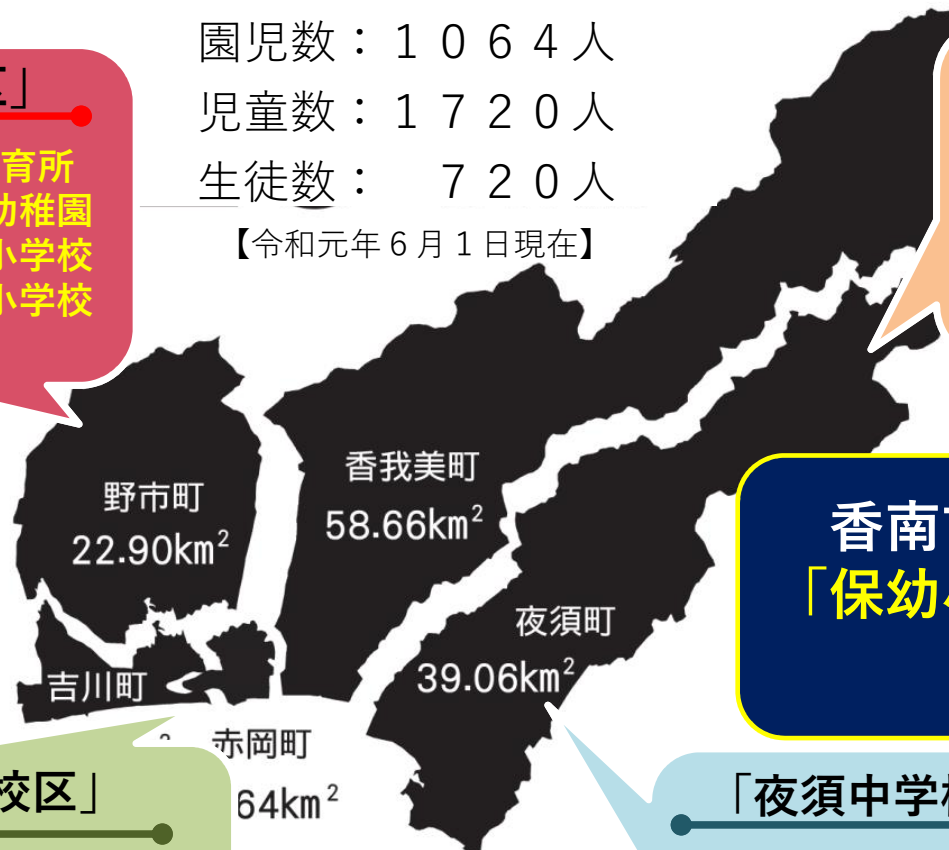
香南市すべての中学校区で
「保幼小中連携（一貫）教育」
を推進

「赤岡中学校区」

赤岡保育所・吉川みどり保育所
赤岡小学校・吉川小学校
赤岡中学校

「夜須中学校区」

夜須保育所
夜須幼稚園
夜須小学校
夜須中学校



○ 一貫教育への歩み

【H24年度 連携から一貫へ】

- 家庭・地域の教育力の低下による育成環境の厳しさ
 - 学力・体力や社会性の低下・二極化への対応
- システムの見直しと教育の質の向上

【H25年度 連携型一貫教育の推進】

- 保幼小中と学校や地域が協働した学校づくり
 - 一貫教育に対する保護者や地域の不安払しょく
- 連携を強めることによる一貫教育の推進

【H26年度 隣接型一貫教育の推進】

- 隣接（立地条件）を活かした一貫教育の推進
 - 横のつながりの強化（町P連の活動促進、地域本部の再編）
- 縦（保幼小中）と横（保護者・地域）の一貫性の強化

**H27年度
取組の定着**

香南市の教育 香南市の保幼小中連携（一貫）教育の取組

香南市教育振興基本計画

基本理念

- 子どもに夢
- 青年に希望
- 高齢者に生きがい

《目標》…**0歳～15歳**までの15年間を通し、「香南市保幼小中連携カリキュラム」に基づき、子どもの発達段階に応じた系統的な教育を進めることで、コミュニケーション能力を身に付けた子どもたちを育成する。

めざす
子ども像

自ら未来を
切り拓くことのできる子

愛あふれ明日を拓く香南っ子

自分を愛し、人を愛し
人に愛される子

香南市保幼小中連携カリキュラム

学力向上

体力向上

不登校改善

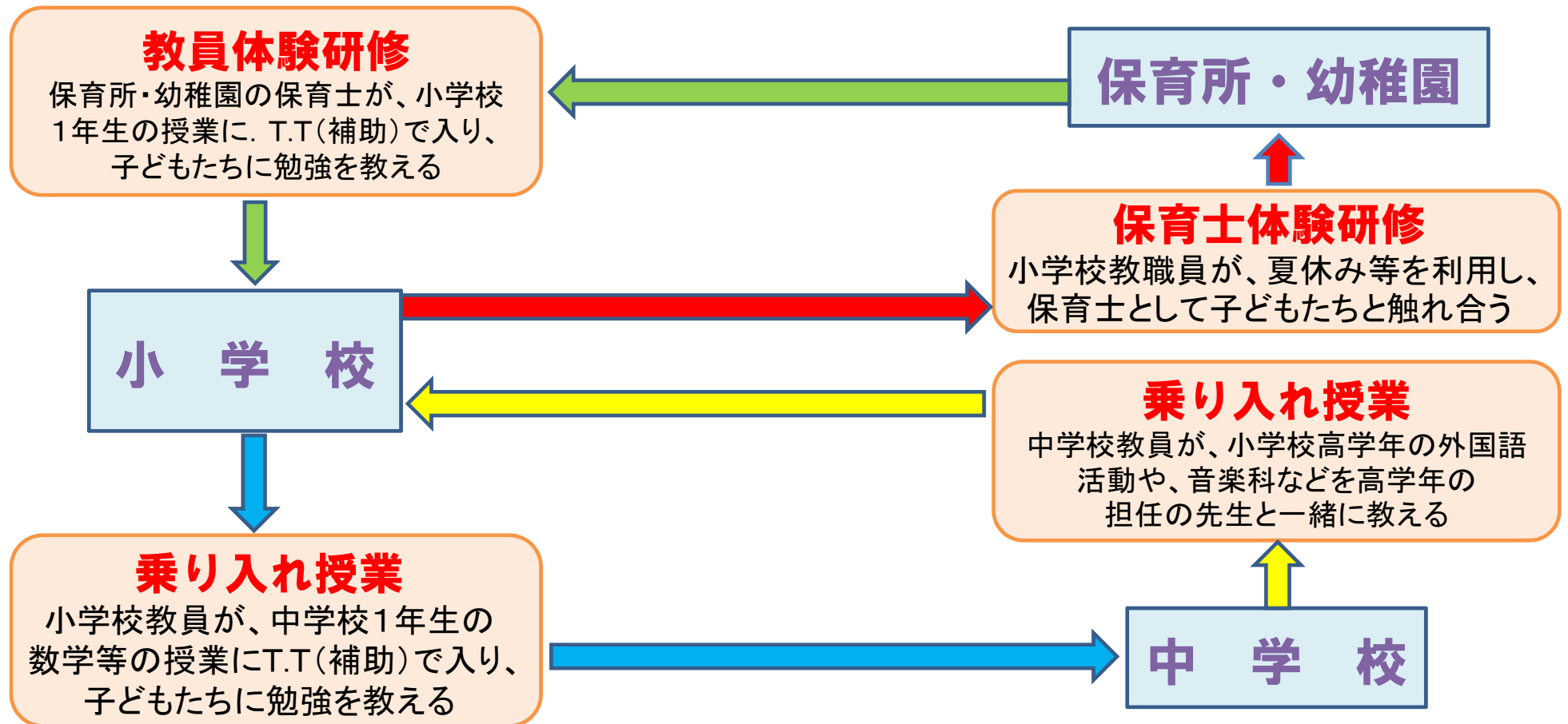
自尊感情

規範意識

コミュニケーション能力

保幼小中・家庭・地域連携（一貫）教育

1. 体験研修乗り入れ授業



保幼小中・家庭・地域連携（一貫）教育

2. 子ども同士の交流

- 保育所、幼稚園の園児と1年生がペアになり、おもちゃ作り。
- 中学生と6年生と一緒に競技。後輩へのいたわり、先輩へのあこがれが生まれる。「行ったことがある」・「会ったことがある」ことで、新しい環境への安心感につなげる。「中1ギャップの解消」

保幼小中・家庭・地域連携（一貫）教育

3. 教職員の交流

- 「中学校区研修会」・・・年3回実施。中学校区で、子どもたちの様子や各校の取組を情報交換し、より深い子ども理解につなげる。
- 「教職員同士の相互理解」・「子どもと教職員との相互理解」

保幼小中・家庭・地域連携（一貫）教育

4. 家庭・地域との連携

○地域の方が小中学校に出向き、授業や交流を行う。

- 地域の歴史、むかし遊び（あやとり・折り紙・お手玉など）、交通安全、書道、消防団との防災訓練、農家の方との給食交流など。
- 夜須の踊りを地域の方が生歌で教え、運動会に踊る。お祭りには獅子舞が学校を訪れて、舞を披露。
- 地域の方が読み聞かせに、保育所・幼稚園、小中学校に出向く。中学生は、保育所・幼稚園を訪れて読み聞かせを行っている。

○ 保育形態のつながり（0歳児から5歳児まで）

初期
3年

0歳～2歳（保育所での生活）

- ・ 保育所での保育
- ・ 保育所での幼稚園児・小学生・中学生との交流

前期
1年

3歳（移行期、保育所生活と幼稚園交流）

- ・ 幼稚園児との交流（人的環境への適応）
- ・ 園舎や園庭での交流（施設環境への適応）

中期
1年

4歳（幼稚園での生活）

- ・ 幼稚園での保育
- ・ 幼稚園での保育園児・小学生・中学生との交流

後期
1年

5歳（移行期、幼稚園生活と小学校交流）

- ・ 小学生との交流（人的環境への適応：各学年との交流等）
- ・ 校舎や校庭での交流（施設環境への適応：校庭での自由な遊び等）
- ・ アプローチカリキュラム

○ 授業形態のつながり（小1から中3まで）

前期
4年

小1年～小4年（学級担任制）

- 3年以下 → 全教科担任指導
- 4年 → 算数、体育（担任外の関わり）

中期
3年

小5年～中1年（移行期）

- 5年 → 理科、音楽、国語、外国語（担任外の関わり）
- 6年 → 理科、体育、国語、算数、外国語（担任外の関わり）
- 中1 → 小4・小5・小6担任が週1時間乗入（小学校教員の関わり）

後期
2年

中2年～中3年（教科担任制）

- 2年以上 → 全教科について中学校の教科担任が指導
- 高等学校や就職に向けた学習指導

香南市では小中学校9年間を、4年、3年、2年と区切るような、新たな教育課程を編成する「小中一貫」ではなく、現行の枠組みはそのままの「保幼小中・家庭・地域連携（一貫）教育」を推進。

○ 取組の方向性

保幼小中の連携による「たての一貫性」の向上
【3プロ（プロジェクト外会）と4カリ（カリキュラム会）による推進】

- | | |
|----------------|-----------------------------|
| ①組織体制の整備と運営 | 〈中学校区所属長会〉 |
| ②学力課題の検証と改善 | 〈学力向上プロジェクト外会〉 |
| ③発達段階に応じた仲間づくり | 〈仲間づくりプロジェクト外会〉 |
| ④生活リズムの定着 | 〈生活改善プロジェクト外会〉 |
| ⑤必要課題への対応 | 〈カリキュラム会 キャリア教育・防災・体力向上・接続〉 |

保護者や地域との連携による「よこの一貫性」の向上

- | | |
|-----------------|---------------------|
| ①保護者連携、学校と家庭の協働 | 〈夜須町P連〉 |
| ②地域ボランティアとの協働 | 〈YASUらぎ子ども支援ネットワーク〉 |
| ③地域に根ざした学校運営 | 〈中学校区評議員会〉 |

考察・感想

1. 「小中連携一貫教育」に取り組んでいる自治体は多いが、0歳児（幼稚園児・保育園児）から中学生までの一貫教育に取り組んでいることは、大切な視点だと思う。ただし、香南市では、保育所・幼稚園は、ほとんどが公立であるため、取り組みやすいという利点がある。
2. 連携も、保育所・幼稚園・小中学校だけにとどまらず、「家庭・地域」を含めて実践している点が素晴らしいと感じた。
3. 各中学校区において、1日単位での「**乗り入れ授業**」を、年間10回も行っている。乗り入れ授業がやりやすいように、小中で授業の開始時刻を揃えるなどの工夫がされていた。
4. 管内すべての小学校の教師が夏休みなどに保育所・幼稚園で保育体験を行ったり、逆に保育士が小学校1年生の授業に入ったりと「**体験研修**」が確実に行われ、成果を上げていることも参考にしたい。

ご清聴ありがとうございました



ありがとうございました!

